# 第2章
# 周南市の概況

1. 沿革、位置 ……16
2. 自然環境 ……17
3. 気象 ……19
4. 人口 ……20
5. 産業 ……21
6. 土地利用 ……23
7. 市民が未来に残したいと考える本市の環境 ……24

黒岩峡

# 1. 沿革、位置

周南市は、徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町の2市2町が合併して 2003（平成 15）年4月 21 日に誕生しました。「周南」は古くから周防の国の南部、すなわち瀬戸内海を望む広い地域を指す言葉として用いられてきました。周南地域は古くから海陸交通の要衝として栄え、県東部の中核的な都市として発展してきました。

本市の北部は中国山地の山稜からなだらかな丘陵地が広がり、農山村地帯が散在しています。南部は瀬戸内海を望み、海岸部の幅の狭い平野には東西に長い市街地が形成されています。また、海岸線に沿って大規模工場が立地しています。南部の半島部と島しょ部は、瀬戸内海国立公園区域にも指定されている美しい自然景観を有しています。

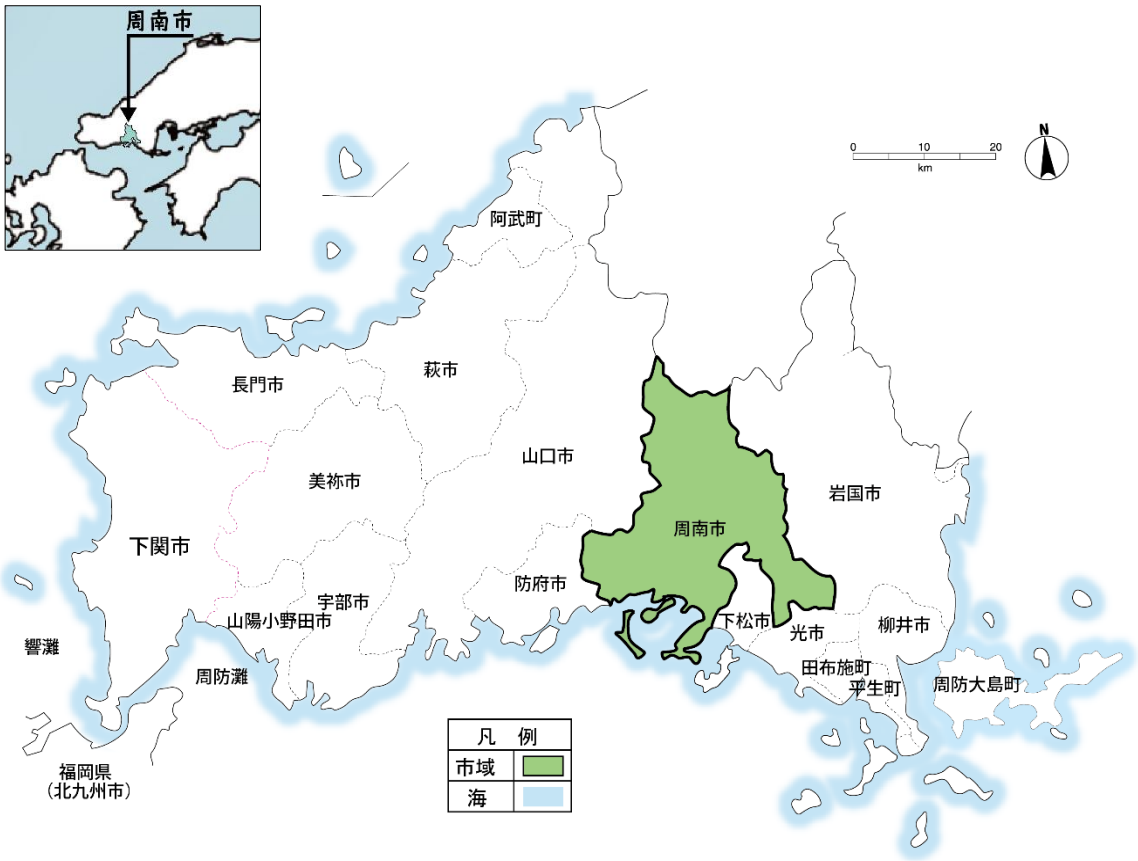


図 2-1 周南市の位置

## 2. 自然環境

市内では、「瀬戸内海国立公園」の一部として岩島、太華山、州島、樺島等や、黒髪島と大島半島の大部分、大津島の一部及び瀬戸内海が自然公園※に指定されています。また、「石城山県立自然公園」の一部として黒岩峡周辺等が指定されています。

自然公園内では、建物等の新築や改築、木竹の伐採、鉱物の採取などが規制されており、行政（国や県、市）や市民団体が協働して豊かな自然を保全しています。

※自然公園法に基づく「自然公園」は、優れた自然の風景を守り、その利用の拡大を進めることを目的に指定されます。

太華山からの風景

黒岩峡

また、市内には生物の生息環境として重要な藻場・干潟が存在します。2017（平成29）年度完成の「大島干潟」は、徳山下松港内の浚渫土砂を活用して造成された人工干潟で、干潟の造成後よりアマモ場・コアマモ場が新たに形成されるなど、多様な生態系が構築されています。大島干潟では「大島干潟を育てる会」による保全活動や、ブルーカーボン・オフセット制度*を活用した取組が進められており、保全活動の活性化・持続化、また、カーボンニュートラルの推進を目指す活動として注目されています。

大島干潟と生物（上：メバルの稚魚、下：カミナリイカ）

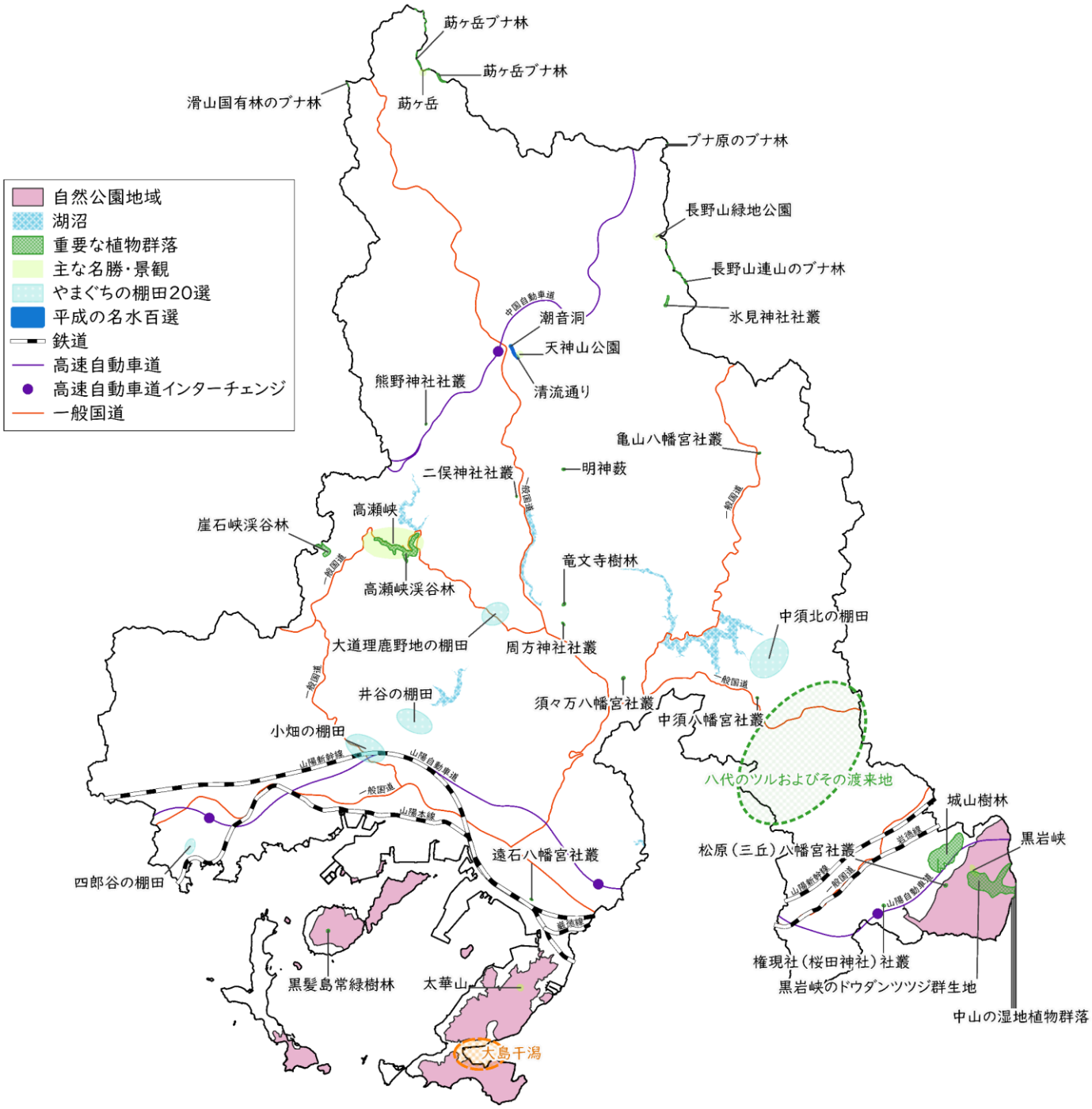


**図 2-2 自然環境情報**

[参考：環境省資料（第4・5回自然環境保全基礎調査、 第2・3・5回特定植物群落調査、生物多様性保全上重要な里地里山、平成の名水百選）、山口県資料（ふるさと山口の自然公園案内、やまぐちの棚田 20 選）、周南市田園環境整備マスタープラン]

## 3. 気象

本市には気象観測所が和田と鹿野の2箇所に設置されており、近傍では岩国市と下松市に設置されています。

本市の沿岸部は比較的温暖少雨で、山間部は気温が低く冬季には積雪が見られます。

**図 2-3 本市周辺の気象観測所の位置**

[参考:気象庁 Web ページ]

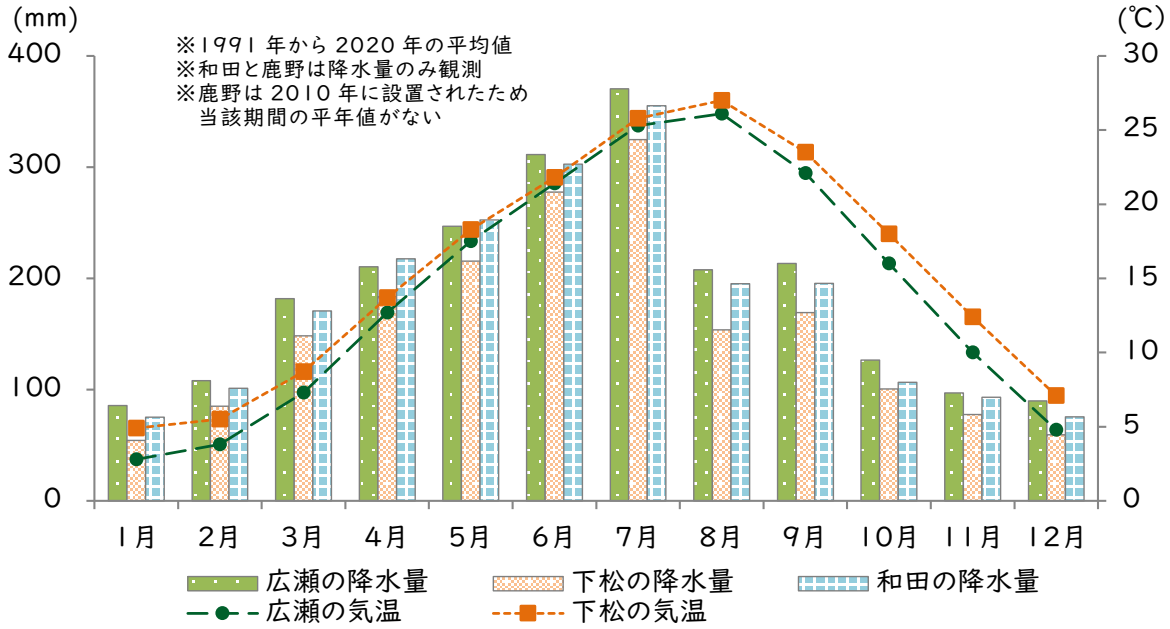


**図 2-4 月別の気温及び降水量**

[参考:気象庁 Web ページ]

## 4. 人口

本市の人口は減少傾向にあり、1 世帯当たりの人口が減少して単独世帯が増加しています。
また、老年人口が増加して年少人口が減少する「少子高齢化」が進行しています。

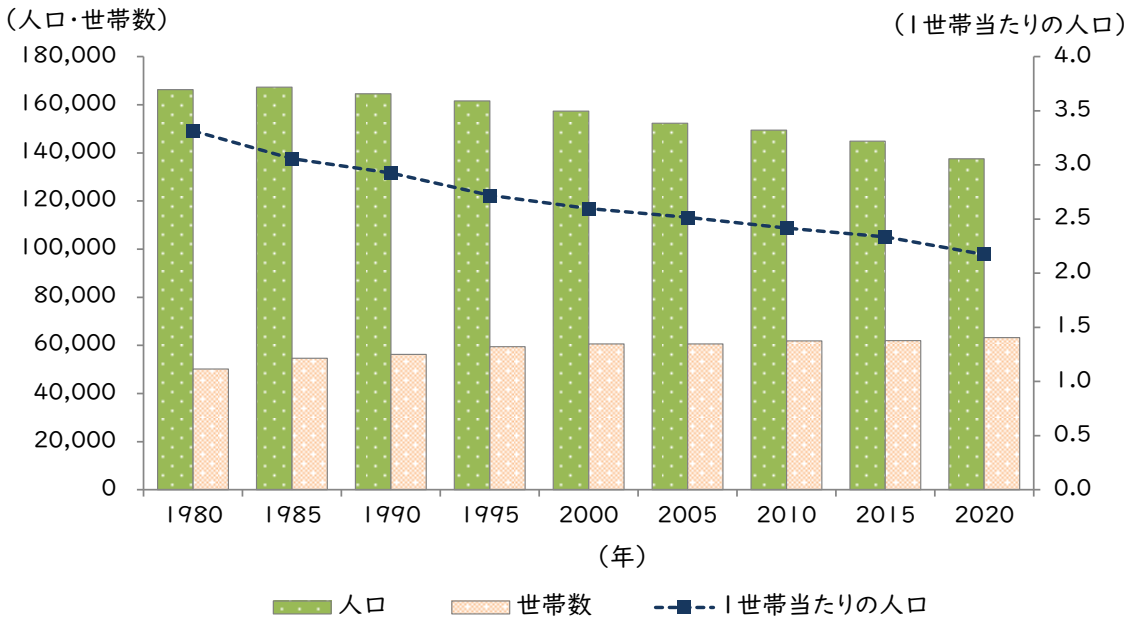


**図 2-5 人口・世帯数・1世帯当たりの人口の推移**

［参考：国勢調査］

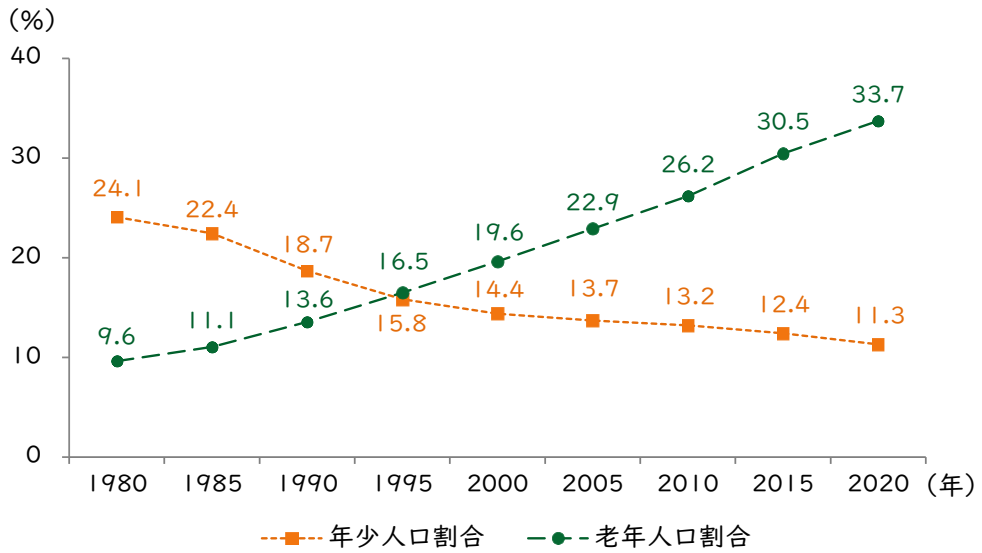


**図 2-6 年少人口（15 歳未満）及び高齢人口（65 歳以上）割合の推移**

［参考：国勢調査］

## 5. 産業

本市の産業は、第2次及び第3次産業の占める割合が大きくなっています。臨海部に位置する全国有数の石油化学コンビナートである周南コンビナートを主体として、県下の産業を牽引しています。

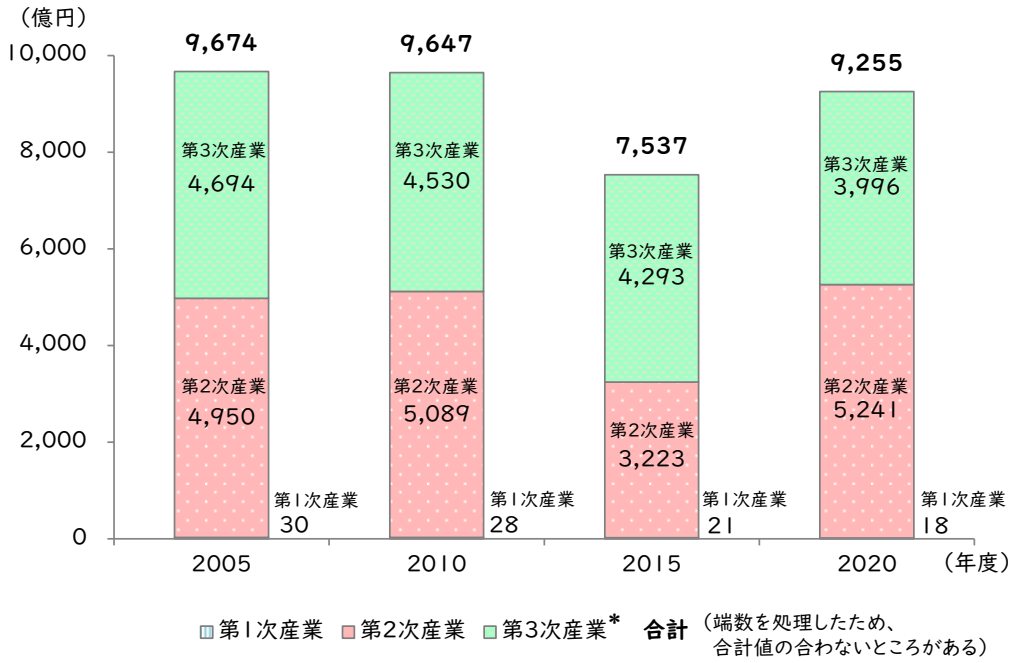


**図 2-7 産業別総生産額の推移**

［参考：山口県統計年鑑］

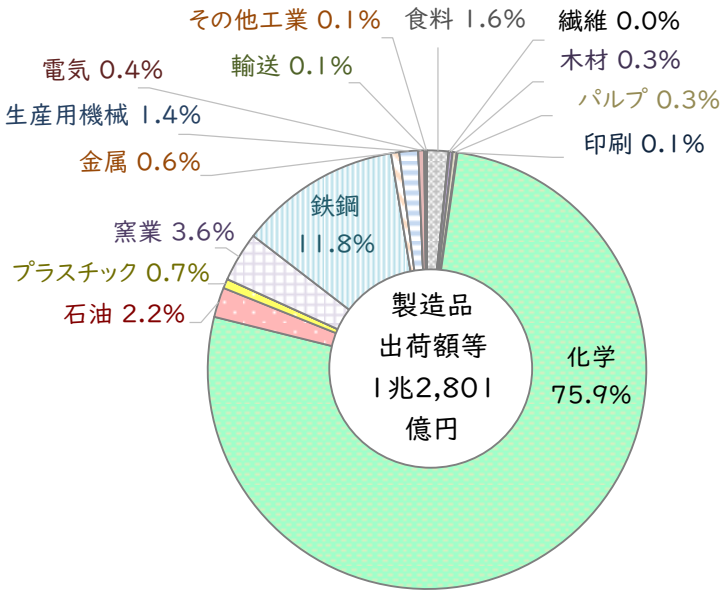


**図 2-8 産業中分類別の製造品出荷額の構成（2020 年、従業員数4人以上）**

［参考：2020 年工業統計調査結果（山口県分 確報）］

周南コンビナートでは、製品の製造過程で大量かつ高純度な水素が生成されています。水素は燃焼しても $CO_2$ を排出しないため、カーボンニュートラルの達成に向けて世界的にこの利用が注目されており、本市では長年に渡って水素の利活用に係る取組を推進しています。

**表 2-1 本市の水素利活用に係る取組**

| | |
|---|---|
| 2007（平成 19）年 | 「水素タウンモデル事業」として石油化学コンビナートの水素をパイプラインで敷地外の一般家庭の燃料電池へ供給する全国初の実証事業を実施。 |
| 2013（平成 25）年 | 全国で 3 箇所目となる液化水素製造工場が市内に進出。国、県、民間事業者、学識経験者等からなる「周南市水素利活用協議会」を設置。 |
| 2014（平成 26）年 | 水素利活用に向けた取組目標施策の展開方法等を示した「周南市水素利活用構想」を策定。 |
| 2015（平成 27）年 | 周南市水素利活用構想の取組を具現化する「周南市水素利活用計画」を策定。<br>燃料電池自動車*の導入促進、燃料電池フォークリフト、定置用燃料電池等の実証や普及啓発事業を実施。 |
| 2024（令和6）年 | 「第2次周南市水素利活用計画」を策定。 |

**燃料電池自動車から市民センターへの給電**

**水素関連イベント（水素実験コーナー）**

［出典：第2次周南市水素利活用計画］

## 6. 土地利用

本市の土地利用は、山林が大部分（7割近く）を占めています。また、海岸部の幅の狭い平野には、東西に長い市街地が形成されています。

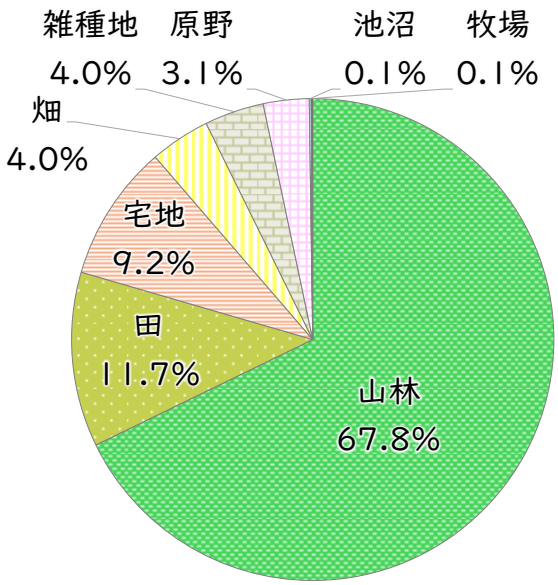


図 2-9 土地利用状況（2021 年度）

［参考：周南市統計書］

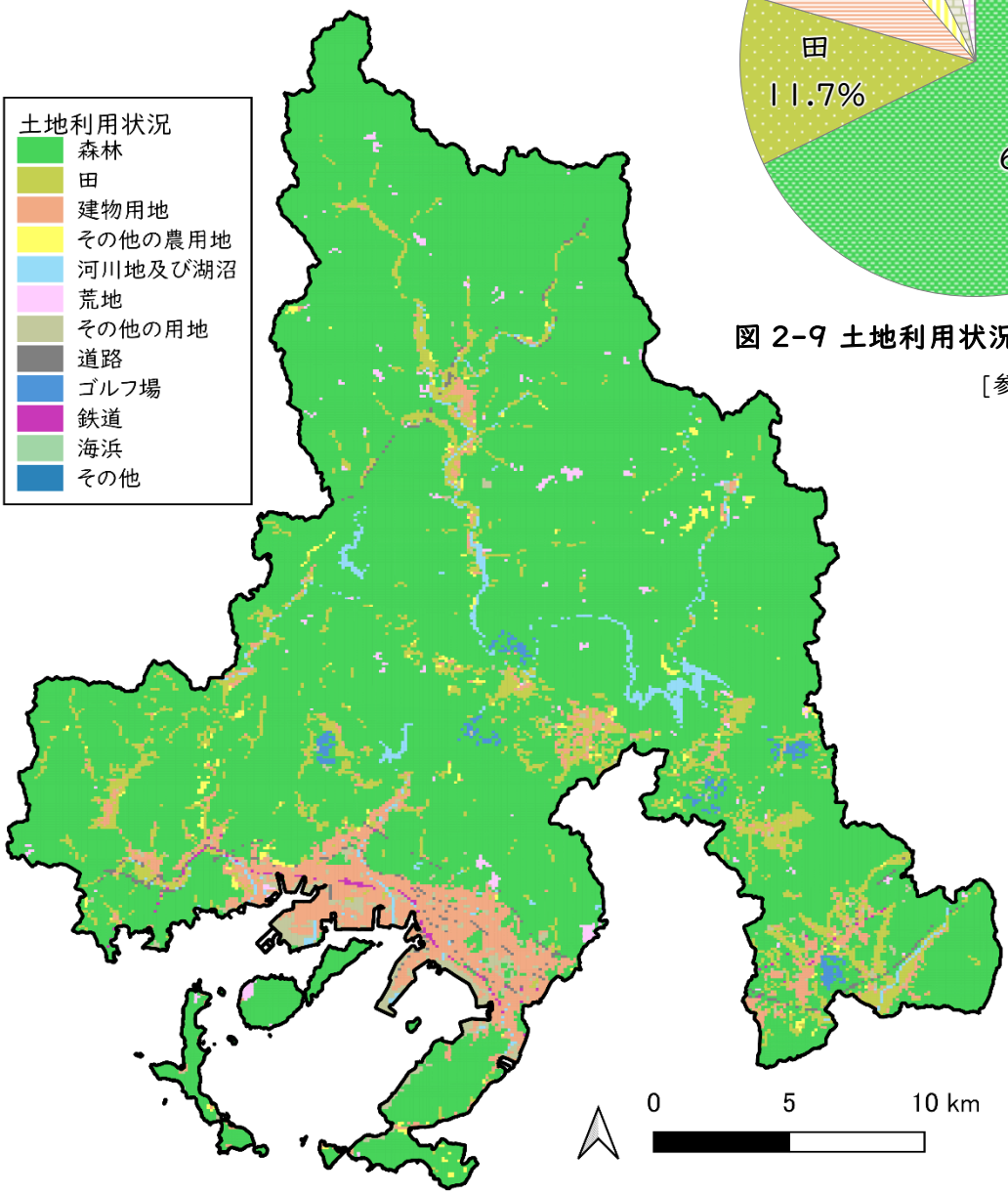


図 2-10 土地利用状況（2021 年度）

［参考：国土交通省 国土数値情報］

# 7. 市民が未来に残したいと考える本市の環境

市民アンケート調査において、「周南市内で、未来に残したい自然環境や景観・史跡、場所などはありますか？」と質問した結果、回答が多かった場所を次に示します。

この結果からもわかるとおり、本市は、瀬戸内海の青い海、中国山地の緑豊かな山々に囲まれています。また、自然が織りなす「春・夏・秋・冬」の四季の移り変わりの中で、豊かな自然の恵みを享受しながら生活しています。

## （1）未来に残したい自然環境

図 2-11 未来に残したい自然環境

## (2) 未来に残したい景観、その他の環境

図 2-12 未来に残したい景観、その他の環境

COLUMN

## 小学生が思い描く、未来の周南市

市内の小学 4 年生から 6 年生に『10 年後の周南市の姿』について考えてもらいました。ここでは、その一部を紹介します。

道にごみがおちていない

一人ひとりが、「地球を守っていくための行動」を常に意識することがあたりまえになっている市。

緑いっぱいの公園がたくさんある周南市が大好きです。
木を植えたり大切にして、ずっと美しい周南市であってほしいです。

海水温や気温上しょうがとまり、魚や農作物が豊富にとれる市になっている。
風水害もなくなり、住みやすい市になっている。

徳山港では船を使います。なので、10 年後は水素で動く船を開発して、ゆ送をしていると思います。
ぼくも水素で動く船に乗っているかもしれません。

自然をこわさないで、自然を大切に、資源を大事にする人がふえてほしいです。

電気で動くバスやモノレールなどが走っていて、日本で一番エコをがんばっている都市になっているといいと思います。

自然、緑がたくさんあって、豊か

ぼくはつりがすきなので、きれいな海があって、魚がたくさんいる、ゆたかな海であってほしいです。

ゴミがなくてきれいなまち。空気がきれいなまち。植物など、自然がたくさんあるまち。みんなが心豊かなまち。
こんなまちになるようにがんばろー!!

屋根にいっぱい太陽光パネルがはられてある